

平成27年度 第2回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術を育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

記

「平成27年度 第2回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成27年12月3日（木）10：00～12：00

場所：サンポートホール高松 5階 54会議室

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（8件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。
今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 新技術の試行調査計画（1件）

テーマ設定型（技術公募）で技術募集した技術について、今後の試行にむけて、試行調査計画を審査します。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成27年11月26日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長 湯佐 昭二 (087-851-8061 内線 3451)

○ 施工企画課長補佐 木下 功 (087-851-8061 内線 3453)

※○：主たる問い合わせ先

～審議技術の概要～

<事後評価>

『笠コンブロック(HK-110036-A)』

矢板（U型・広幅型・ハット型）用護岸の笠コンクリートの型枠部に、プレキャスト化した円形状コンクリート製品を設置し中詰コンクリートを打設し一体化することで、工程の省略化・安全性の向上が図れる製品。

『FAボックス(QS-110006-A)』

3分割されたプレキャスト部材と現場打ちコンクリートを併用することにより、大断面ボックスを構築する工法で、型枠支保工を必要とせず、足場工も少量設置で良いため、施工期間の短縮が図れる製品。

『手摺り据置方式先行手すり枠「ホリーアップ零」(HK-110027-A)』

手摺り先行枠の主要材質をアルミ合金とし軽量化を図ると共に、各部材の接続部の多くをボルトナットを使用した緊結方法にすることにより、損壊部材のみの交換修理で良いため経年メンテナンスの容易化が図れる製品。

『サークルG工法(HK-110027-A)』

現場条件に適合した専用部材を選定し、アンカー固定や橋梁地覆への挟み込み等で簡単に設置施工できる仮設足場であり、橋梁の地覆コンクリート部及び高欄部の補修工事に使用することにより、桁下での作業が少ないため安全に作業を行うことが出来る工法。

『潜水深度管理システム(THK-100001-A)』

高精度圧力式深度計を利用し、船上の管理用パソコン画面で潜水土の潜水深度と経過時間をリアルタイムに確認することで、潜水時間（潜降時間・作業時間）と浮上方法（減圧深度と待機時間）を管理出来るため、減圧症等の高気圧障害を予防し、安全性の向上が図れるシステム。

『交通災害防止システム航行MSCO/DRAムスコ(KTK-100007-A)』

各監視対象物の位置情報を、携帯通信モジュールとGPSを内蔵した小型軽量の装置により、インターネット上のデータセンターに自動送信され、インターネット接続環境が整備されていれば、どこからでも監視可能となるシステム。

<事後評価（再評価）>

『スーパーライト700(KK-020002-V)』

仮設足場鋼管の使用材に、高張力鋼（700N/mm²）を採用することにより、鋼管重量が25%軽減するとともに、溶融亜鉛メッキ及び暴政コーティングの鉛やカドミウムの低減、クロムフリー化を図った製品。

『枠組足場用布板「セイフティウオーク」(KK-070009-V)』

枠組足場の歩行面（床面）の隙間を70%カットして、小物等の落下や布板の横ズレを防止すると共に、連結部（つかみ金具）まで床面レベルを上げることで凹凸が無くなり、フラットな歩行作業面が確保でき、安全性が向上する製品。

<試行調査計画（案）>

『RTD-INCOTEST(KKK-140002-A)』

岸壁や栈橋等で用いられる鋼矢板や鋼管杭について、電磁誘導による過流探傷技術を用いることにより、測定対象に付着・施工された被覆材、貝殻等の海洋生成物を撤去せずに腐食状況（減肉の度合い）調査を行う事が可能なシステム。

技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp>

平成27年度 第2回四国地方整備局新技術活用評価委員会 議事次第

日時：平成27年12月 3日（木）10:00～12:00

場所：サンポートホール高松 5階 54会議室

I. 開会

II. 挨拶（企画部長）

III. 議事

1. 平成27年度第1回新技術活用評価委員会の報告等

1-1 平成27年度第1回新技術活用評価委員会の報告等

2. 新技術の事後評価

2-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

2-2 笠コンクリートブロック

2-3 FAボックス

2-4 手すり据置方式先行手すり枠「ホリーアップ零」

2-5 サークルG工法

2-6 潜水深度管理システム

2-7 交通災害防止システム 航行MSCO/DRAMスコ

3. 新技術の事後評価（再評価）

3-1 今回事後評価（再評価）を行う技術について

3-2 スーパーライト700

3-3 枠組足場用布板「セイフティウォーク」

4. 新技術の試行調査計画（案）

4-1 RTD-INCO TEST

5. 推奨技術・準推奨技術の選定

5-1 推奨技術推薦基準について

5-2 推奨技術の選定

5-3 準推奨技術の妥当性の確認

6. その他

IV. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」 設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS（New Technology Information System, 新技術情報提供システム）を用いて新技術の活用を推進してきたところでありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略：順不同)

(大学 5名)

松島 学	香川大学工学部 教授 (構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)
吉田 秀典	香川大学工学部 教授 (構造工学、地震工学、維持管理工学)
伊福 誠	愛媛大学 名誉教授 (海岸工学、自然災害科学)
高木 方隆	高知工科大学システム工学群 教授 (国土情報処理工学)
渡邊 健	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授 (コンクリート工学)

(産業界 3名)

- (社) 日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長
- (社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 企画部会 部会長
- (社) 日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

- 国土研究開発法人 土木研究所 材料資源研究グループ長
- 国土研究開発法人 港湾空港技術研究所 特別研究官

(整備局 8名)

- 四国地方整備局 企画部長 外7名